

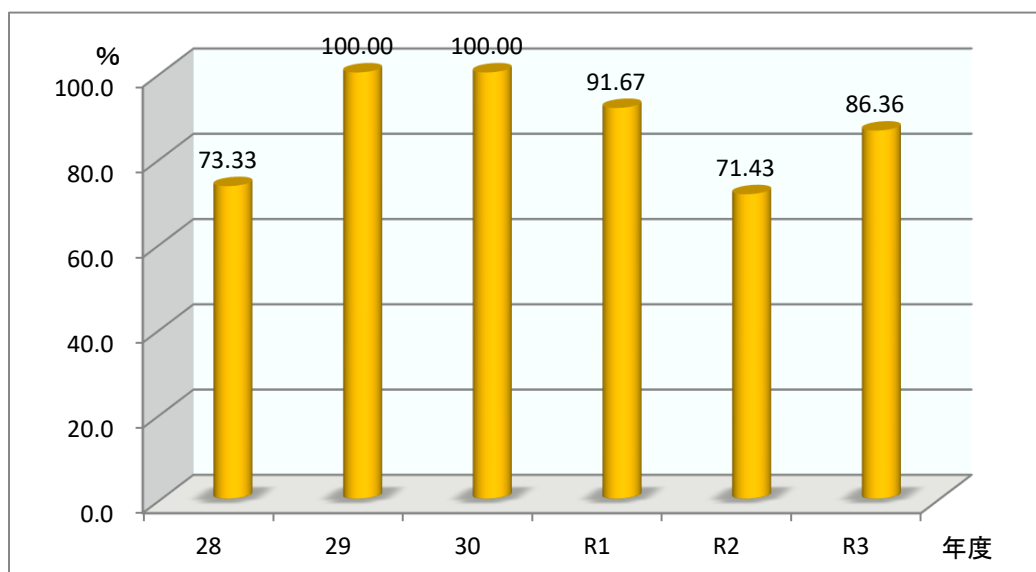
9 脳梗塞の早期リハビリテーション実施率

解説

脳梗塞患者へのリハビリテーション早期実施は有効です。意識がなくICU(集中治療室)内にいるような状況においても適切にリハビリテーションを施行することで、意識回復後の機能改善の可能性がります。適切なリハビリテーションの開始により、入院期間の短縮やQOLの改善にもつながり、より適切な医療介入を評価するものです。

脳梗塞の新鮮発症に限るため、緊急入院患者に限定します。「DPC010060」では、椎骨脳底動脈不全やもやもや病の検査入院等、実際に脳梗塞を発症した患者以外も含まれるため、病名と入院時の状況の把握が必要です。

実績



自己点検評価

平成28年2月にリハビリテーション科が開設され、専属の医師による診療が開始されたことにより、ハイリスクな脳梗塞患者に対しても早期からのリハビリテーション治療が可能となりました。R2年度よりも実施率は改善していますが、更なる改善のために要因を精査し、より早期からリハビリテーションを開始できるよう努めたいと思います。

定義

緊急入院した脳梗塞症例の早期リハビリテーション実施率(%)。
院内発症した脳梗塞症例は含みません。3日以内退院と転帰が死亡である場合は除きます。再梗塞を含みます。

算式

分子:入院4日以内にリハビリテーションが開始された患者数。
分母:最も医療資源を投入した病名が脳梗塞の患者で、発症から3日以内且つ緊急入院した患者数。